

咲
が、
ソウ、
いの
ち

春彼岸
はなまつり



お参りに行くと幼稚園に通う元気な兄妹二人がお経のあいだ後ろでそわそわしています。そしてお勤めが終わり、後ろをふりむくと、よーいどんっ！お仏壇に御供えしてある御仏飯の争奪戦が始まります。周りの大人たちから、お行儀よくしなさい。と叱られながら、小さな仏さま用の器に丸く供えられたご飯をパクリ。じいちゃんのご飯おいしいわー。このご飯が一番好きやわー。と、兄妹は祖父の供養のお下がりを満喫します。さぞかし、ご先祖さまからも微笑ましく見守っていただけてることだと思います。

この兄妹が大きくなったとき、この話をして記憶にないかもしれません。しかし小さい時から身近にあったお仏壇は二人にとって家にあって当たり前、お供え物があって当然。その前で手を合わせることに何の違和感も持たないでしょう。それがありがたいことです。

家にお仏壇があるということは日常生活の中に自然と手を合わせることで、感謝する心、いのちの大切さ、何事にも代えがたい大切なことをたくさん頂けるということです。

日蓮大聖人がお唱えになられた南無妙法蓮華経は、ご先祖さま、今、生きている私達、これから生まれる次の世代、そのすべてを守っていただけるありがたいお題目です。

お仏壇をおまつりし、それに手をあわせ、また受け継いでいく。ほんとうにとってもありがたいことなんです。

